令和６年７月
第　７５　号
発行　普照院

不動心

今年の桜の季節に、肉親以外ですと高校の同級生だった家内の次に付き合いの長かった親友が、ガンで亡くなってしまいました。彼とは大学で知り合った同級生で、初めて言葉を交わしたのはJR天王寺駅前でした。そしてその後、大学時代に一緒に海外研修に行っただけでなく、卒業後に彼がオーストラリアへ海外赴任したことを良いことに、私もその勤務先へ転がり込んで大変世話になりました。

そんな彼は、私が日本に帰国した後もずっとオーストラリアで働き続け、コロナ禍がおさまった昨年、約30年ぶりに両親の介護のため帰国してきました。今度は私が恩返しする番だと、彼が日本での生活基盤を確立するために何度も会って色々な話しをしていたのですが、昨年暮れに忘年会がてら天王寺駅で会ったのが結果的に最期になってしまいました。闘病期間は、２ヶ月もありませんでした。

正直なところ、私の身近で年齢の近い人間がガンで亡くなったのは初めての経験で、しかもほぼ毎日LINEなどでやりとりしていた仲だったので、いまだにその死を受け止めきれていません。生前の本人からガンであることは聞いていたのですが、死の二日前までLINEで会話が出来ていましたし転移も無いと聞いていましたので、てっきり二、三ヶ月もすれば自宅療養に切り替わるものだと思っていました。結局、彼は親族への遺言で自分の葬儀の際は私を導師にと指名してくれていましたので、お別れの際は一生懸命その責務を果たすことができました。

しかしこんな時、よく宗教者などが「若い方が亡くなった際、残された方々に伝えるのは、命が失われてしまったことより、たとえ短い間でも私たちと一緒にいてくれたことに感謝しよう。一緒に生きられたことが、一生の宝なのだ。」などと言いますが、いまだにそんな感情にはなれません。ただ、念仏をお称(とな)えすることで、彼が今いる「極楽浄土」の阿弥陀さまが、毎度私に「お前の念仏で、彼のことはちゃんと救い取っているから安心しなさい。」と語りかけてくれているようで、少し心が安らぎます。さらにその後ろからは「お前、もっと勉強しろ、修行しろ。」と、彼が言ってくれているような気もします。
そしてそんな経験をしていると、今さらながら念仏のありがたさを実感し、初めてそれを理解できてきたように思います。

でも、やっぱり本当に辛い。いつまでこんなに辛いのだろう。また、会いたい。

合掌

岩手・金色堂と聖塚（ひじりづか） ～住職のおススメ寺院・時宗スポット～

（左写真は中尊寺金色堂 HP より）

５月末に、岩手県へ研修旅行に行ってきました。その一番の目的は、私が住職になる際にその身元保証人になっていただいた恩師の墓参りですが、せっかく岩手まで足を伸ばしたのですから、短い時間ではありましたが、上写真の 2 箇所にも参拝してきました。

まず左写真はご存知の方も多いと思いますが、岩手県平泉・中尊寺金色堂です。鎌倉時代が始まる前の奥州藤原氏の時代に建立されたお堂で、ご本尊は阿弥陀如来です。また金色堂自体は、その全面に貼り付けられた金箔を風雨から守るために、覆堂（おおいどう）という建物の中にあります。現在の覆堂は昭和３８年に建てられたもので、外側は近代建築物です。しかし中に入ると、本当に極楽世界とはこういうものなのだろうと思わせる迫力のあるお堂がありました。京都の同じ金箔の金閣寺も素晴らしいものですが、この金色堂はさらにそこに歴史を感じる荘厳な世界観がありました。

そしてもう一箇所は、時宗信徒であれば是非お参りしておきたい宗祖一遍上人の祖父「河野通信」にあたる方のお墓（墳墓）です。ここへ公共交通機関を使ってたどり着くことは、ほぼ不可能ですので、もしお参りされる方がおられましたらレンタカーをご利用下さい。先ほどの金色堂からは高速を使って約１時間（北上市稲瀬町水越）、山と田んぼが広がる風情のある場所に車を停めて徒歩 5 分くらいの山の中に、ひっそりとお祀りされています。

〔編集後記〕先月、普照院の家族の中で初めてコロナ感染者が出ました。息子が発症したのですが、37 度くらいの熱で家族に感染することもありませんでした。しかし巷では、結構また流行っているようでして、皆さんもお気をつけいただければと思います。そしてそんな騒動の後、今年もお寺のご神木でもあるジャカランダがとても綺麗に咲いてくれました。またそれを見に、たくさんのお参りもありました。普照院は小さなお寺ですが、檀信徒の皆さんのご助力のおかげで、現在は本当に落ち着いて寺院運営ができるお寺になっています。日々感謝です。　　合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院]　　責任者　小田義宗
〒652-0853　神戸市兵庫区今出在家町４－１－29
電話　078－671－1787　　ﾌｧｯｸｽ　078－330－1187
ホームページ　http://fusyoin.com/

普 照 院　検索

これからは、お寺もどんどん情報を発信します。
とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげて下さい。